

国立 富山工業高等専門学校

プログラムの名称

高専元気UP！遊-友-YOUプロジェクト

—新たな憩い・交流・活動空間KOSEN Cafeの創出による遊-友-YOUの関係構築と学校生活の活性化

プログラム担当者

物質工学科 教授 川淵 浩之

キーワード

1. 友-YOUの関係構築
2. 仲間内以外への無関心
3. 遊び
4. 学生を支える様々な人々が寄り合う空間

1. 高等専門学校の概要

富山工業高等専門学校（以下、富山高専と略す）は、実践的かつ創造的技術者の育成を目指して一貫した技術者教育を行う高等教育機関として1964（昭和39）年に設立された。教育理念『自主自立の精神、真理の探究、科学倫理の尊重』とともに、『工学全般の基礎知識を有し、技術力に優れたグローバルエンジニアの育成。広い視野を有し、将来、研究・開発をリードする能力を備えた人材の育成。人・地球との共生の精神を有した人材の育成。』を教育目標とし、44年間で5,600人以上送り出した卒業生は、富山県内外の製造業等を中心に中堅技術者・研究者として活躍している（図1）。

本科には機械工学科、電気工学科、物質工学科、環境材料工学科の4学科、専攻科には機械・電気システム工学専攻と機能材料工学専攻の2専攻があり、現在の学生数は本科生806名、専攻科生49名である。本校は、富山県に立地する高等専門学校として、地域社会と密接な連携をとりながら教育・研究に努めている。2005（平成17）年には「富山高専技術振興会」を設立し、会員企業には本校の教育・研究活動の支援、教員との共同研究の推進等に多大な協力・支援を得ている。国際交流においては、2003（平成15）年には中華人民共和国東北大学と、2006（平成18）年には大韓民国慶熙大学

校と国際学術交流協定を締結している。また、2005（平成17）年に本科4年生から専攻科2年生を対象にした『エコデザイン工学プログラム』を設定し、JABEE（日本技術者教育認定機構）認定を受けている。更に、2007（平成19）年にはIGES-CfS（財団法人地球環境戦略研究機関—持続性センター）によるエコアクション21の認証・登録がされている。

2. 本プログラムの概要

近年の本校学生においては学生の小集団化が進み、仲間内以外への無関心や個人主義の傾向が見られ、頼れる人間を学校内に見出せずに長期欠席や退学に至る学生が現れている。この状況で今求められる学生支援は、学生が互いに支え合える友-YOUの関係構築を促すことであり、学生が元気付けられる体験をする機会を積極的に創出することである。本取組はその鍵を遊びと捉え、学生や教職員の憩い・交流・活動空間としてラウンジKOSEN Cafeを設置し、これを基盤に様々な放課後企画（料理教室、ペット自慢写真展、放課後塾、カウンセラーとの語らい等）を学生の自発的な参加の下で展開する。また、これに主体的に協力する学生の育成のため、従来の低学年宿泊研修やリーダー研修の充実を図る。学年・学科を越えた学生、教職員・カウンセラー、同窓会員、技術振興会員等、学生を支える様々な人々が寄り合う空間を創出し学校生活の活性化を図る。

3. 本プログラムの趣旨・目的

富山高専は、『夢現教育～夢はオンリーワン～』をスローガンに掲げている。言うまでもなく、学校は学生あってのものであり、学生支援とは、“夢実現（夢現）のためのBack Up!!”であると考えている。夢実現のためには富山高専本体が元気である必要がある。

そこで、本取組では、富山高専を活気みなぎる元気

育成すべき人材像

豊かな教養と、専門の工業技術の知識を身に付けた実践的技術者

教育目標

- 1) 工学全般の基礎知識を有し、技術力に優れたグローバルエンジニア
- 2) 広い視野を有し、将来、研究・開発をリードする能力を備えた人材
- 3) 人・地球との共生の精神を有した人材

夢現教育～夢はオンリーワン

図1 富山高専の目標

**富山高専を活気みなぎる
元気な夢実現集団にする！**



高専元気UP！ ^{ゆう}遊-^{ゆう}友-YOUプロジェクト

図2 本取組の最終目標

な（活性化された）夢実現集団にすることを最終目標としている（図2）。

具体的なコンセプトは次の通りである。富山高専本体が元気であるためには、学生が元気でなくてはならない。それには土台となる心の安定・充実が必要となる。心の充実があれば気持ちに余裕ができ、そこから遊び心ができ、友だちの輪に発展してYOUと呼べる関係になると同時に、自分自身を見つめ直す（自分を知る）ことができる。夢の実現に向かう5年間の勉強や学校生活は困難を伴うものではあるが、その時に支えになるのは友と呼べる間柄の人々（同輩、先輩、後輩）である。学生の中にそうした紐帯を産み出すための支援が本取組の主目的であり、それを実行するための鍵が遊び心であると考えた。日頃の真面目な勉強や仕事の隙間に、大胆にも遊び心を積極的・意識的にはめ込んでいくことによって、学生も教職員もともに楽しみながら前進しようという意識を学内に育てる。そのキーワードを三つの“ゆう”とし、遊-友-YOUを掲げ、元気の種子を発芽・成長・開花させるための活動空間としてKOSEN Cafe（高専カフェ）を新設し、学生同士、教職員、学外のサポーター等様々な立場の人々が学生を支え合う動きを創出する取組を行う。

4. 本プログラムの独自性(工夫されている内容)

学校が本来のあるべき姿（原点）に戻ることに本取組の独自性がある。心無き技術者ではなく、夢実現に満ちた技術者の育成こそが富山高専（高等専門学校全体）の使命である。その中でも特に、本取組では次の2つに焦点を絞り、総力を傾ける。

- (1) 低学年（1～3学年）：元気になるための土台となる心の安定・充実を図る取組—1～3学年12クラスを対象に特別教育活動の時間を利用して、カウンセラーや外部専門家等にゲーム感覚のグループエン

カウンターやリラクゼーション等の指導をしていただく。また、学生力向上プログラム（宿泊研修）を実施する。

- (2) 高学年（4、5学年及び専攻科生）：低学年のピア・サポーターや将来のリーダーとなれる人材を育成する取組—リーダーシップやコミュニケーション能力等を身に付けるリーダー養成プログラムを実施する。また、夢現挑戦のための人間力向上の支援を行う。

上記2つを推進するために、施策A)～D)を実施する。

A) KOSEN Cafe（高専カフェ）を新設

学生玄関から中央階段に渡る一連の区域、ないしは図書館1階の広いロビーを利用してKOSEN Cafeを新設し、憩いのスペースの創出を図る。これは、学生と教職員・カウンセラーが多目的に活用してリフレッシュできる空間であり、学生同士、教職員同士、学生と教職員・カウンセラーの距離を縮める狙いがある。KOSEN Cafeにはマスター役の教員と設備管理に当たる事務補佐員を配置し、次の三つの企図を連動させて運営する（図3、4）。

◆遊：“～対決”、“～自慢”、“～教室”、“～道場”、“～体験”（例えば料理教室、将棋大会、うちのペット自慢写真展、クイズアニメ王対決、高専寄席、俳句大会、放課後塾）等を企画して、遊び心を持ちながら自らを表現する場とするとともに、学修の楽しさにも気付かせる（図5）。また、富山高専を元気にする芽を作る場、文化部展示の場、簡単な企画や発表の場、学外講師による小講演の場、情報発信の場等にも活用する。更に、大型ディスプレイを設置して、運動部やロボコンの試合等のビデオ映像、ものづくりに関わる資料映像の放映等を行い、情報の共有化を図り連帯感の向上に役立てる。

◆友：遊の活動を通して学年・学科・部活動等の枠を越えた学生同士の交流を産み出す。そこで生まれた絆を基に、お互いを理解し、本音で語り合うことにより、自分が認められているという安心感・信頼感を持つとともに（心の充実）、自分の夢への気付きに繋げる（夢現への第一歩）。また、自分と違う他者への理解から、多角的に自分を見つめ直させ、友だちの輪に発展させていく（元気の伝播）。これらを連鎖的に働かせ、学生会を中心に富山高専を元気にする学生アイデア募集を行い、採用プロジェクトを実施する。Cafeの運営

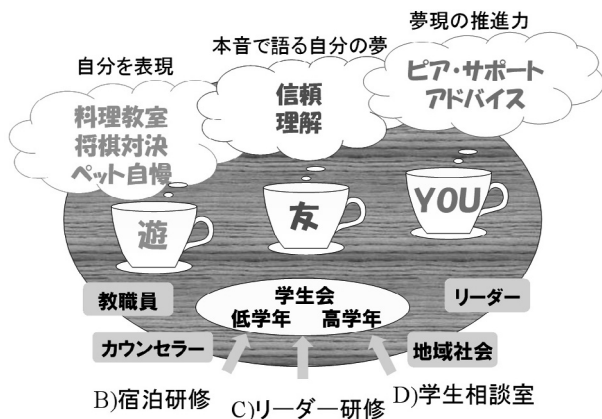


図3 A) KOSEN Cafeの概念図

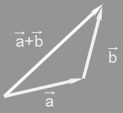
に参加してくれるボランティア学生も積極的に募りたい。

- ◆ YOU：遊-友から発展して、互いを理解尊重し学生力・人間力を高め合う関係にする。高学年生をピア・サポーターとして組織し、低学年や元気の不足した学生の学習、学校生活、進路等の相談役・アドバイザー役として学生支援に参加させていく。また、教職員・カウンセラーは積極的に足を運んで、人生の先輩として学生とともに語り合う。また、地域社会で活躍する同窓会（OB・OG）、後援会（保護者）、技術振興会の方々をも Cafe に招き、夢現のための推進力として学生をサポートしていただく。

お知らせ

○月○日(水)

スペシャルメニュー
「ベクトル」塾




本日のスペシャルマスター

機械工学科	5年	富山	太郎
電気工学科	3年	立山	次郎
数学科		神通	先生

図5 「遊」企画の一例（放課後塾の案内）

B) 学生力向上プログラム（宿泊研修）の実施

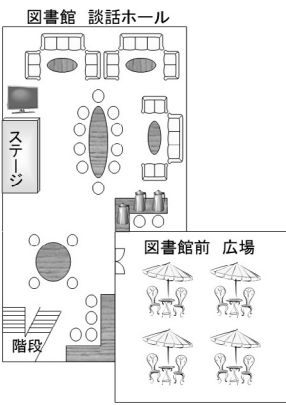
これまで1学年と2学年において宿泊研修を学校行事として実施してきたが、昨今の予算状況ではかなり活動に制限があった。この宿泊研修を、様々な体験活動やグループワークを通して人間性を高める効果的な学校行事と捉え直し、仲間づくり、高等専門学校生としての心構え、リーダーシップ養成等、



図書館 談話ホール

営業時間
平日 16:30~18:30

スタッフ
マスター(教員)
カウンセラー
事務補佐員



図書館 談話ホール

図書館前 広場

図4 A) KOSEN Cafe

各学年に応じた目的を設定して、自然体験や学外講師による講演等の研修内容を充実させていく（図6）。

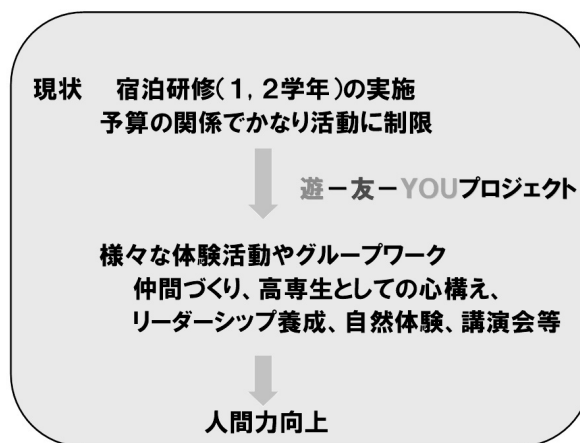


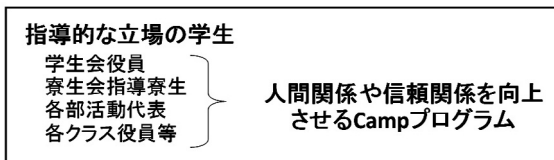
図6 B) 学生力向上プログラム（宿泊研修）

C) リーダー養成プログラムの実施

新たな取組として、『学生の主体性・社会性を高めるプログラム』を実施する。本事業の目的は、青少年教育施設と連携して様々なプログラム（例えば、野外活動、自然体験活動、グループワーク、自己表現、青少年活動指導者等による講義・実践報告、高等専門学校OB・OGによる講演）の開発・実施を通して、学生間の人間関係や信頼関係を向上させ、学校行事や社会活動に積極的に関わろうとする意識を育むことにある。参加対象は、学生会役員、寮生会指導寮生、各部活動代表、各クラス役員等、学生組織の指導的な立場の学生を中心とし、青少年教育施設等において2泊3日程度で実施する。

富山高専の学生を対象とした事業を第一段階（Phase I）とすると、2009（平成21）年10月に統合予定の富山商船高等専門学校と本校の学生を対象とする第二段階（Phase II）、北陸地区高等専門学校の学

生を対象とする第三段階（PhaseⅢ）、東海・北陸地区高等専門学校学生を対象とする第四段階（PhaseⅣ）へとグレードアップさせ、富山高専が活力ある学生のメッカになるように推進していきたい（図7）。



- Phase I 富山高専の学生
- Phase II 富山商船高専に拡充
(平成21年10月統合予定) SUPER高専
- Phase III 北陸地区高専に拡大
- Phase IV 東海・北陸地区高専への広がり

富山高専が活力ある学生のメッカに！

図7 C) リーダー養成プログラム

D) 学生相談機能の拡充

新設のKOSEN Cafeには学外カウンセラーにも参加して頂き、学生の身近にいつもカウンセラーがいるような形にしたい。それには、現在のカウンセリング体制の機能拡充が必要になる。具体的には、カウンセラー3～4名を新たに雇用し、毎日3～4時間学生の相談に当たる体制にする。学生寮でも人間関係等に関する相談ニーズは多いので、寮においてもカウンセラーと相談できるようにする（図8）。

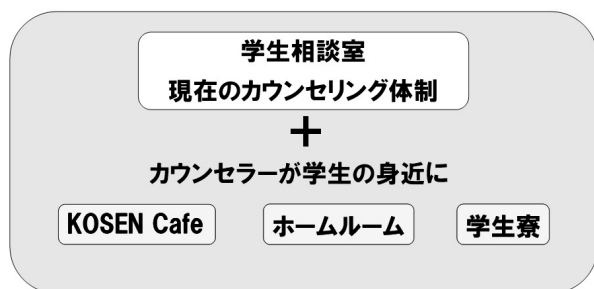


図8 D) 学生相談機能の拡充

更に、学校全体としての取組として、新たに「学生支援連絡会議」を組織し、学生相談室長、教務主事、学生主事、寮務主事、学生相談室に関わる教員、臨床心理士（スーパーバイザー）、看護師、学生第一課職員をその構成員とする。この連絡会議を定期的に開催し、学生の状況に関する意見交換を行い、学校全体で適切かつ迅速な支援策を講じていく（図9）。

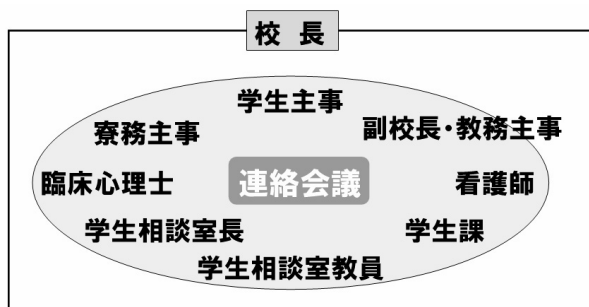


図9 学生支援連絡会議（新設）

5. 本プログラムの有効性（効果）

この新たな取組を通じて学校生活において遊-友-YOUをキーワードに教職員と学生が関わることで、学生が元気になり（低学年では、良好な人間関係を築き、高等専門学校の学修や学生生活に対する不安を取り除き、将来に対する目標・意欲を喚起・保持させる。高学年では、リーダーシップや社会参加への意欲など低学年のピア・サポーターとして行動するための資質の獲得により、全学年において生き生きとした学校生活を送る）、富山高専が元気になることができる（学生の行動を通して学校自体が活性化される）。また、学生の柔軟なアイデアを本プログラムの企画・運営に反映することで、学生の中に、自らも学校を動かしていく力になりうるという自覚が生まれ、責任感が芽生える。そのやる気、元気が富山高専生としての誇りや自信を産み、更に将来への意欲に繋がる。これらが充実した学生生活を送るための学生力となり、学生個々人の夢実現の道のりを支えると期待できる。更に、本取組を新たな工夫としてホームページ等により紹介することで、我が国の学生支援の充実に参加することができる。

現在、学内の各部署（組織）で個別に取り組みられている学生支援を遊-友-YOUのキーワードの下、統一的な視点で捉え直し、連携協力体制を推進することにより、それぞれの支援の目的、役割及び意義が明確化される。また、学生のみならず全教職員の意識が一つとなり、取組がより主体的・積極的になる。

学生が「広い視野と共生の精神を持った実践的な技術者」に育つことは、学生本来のニーズであり、社会や地域が富山高専に求めていることである。現在の日本社会には目的意識が希薄で無気力な若者が増え、ニート、フリーターの氾濫という社会的なマイナス要因をもたらす一因になっているが、確とした目的（実現したい夢）と技術を有する若者を育成することは社会

遊-友-YOUプロジェクト

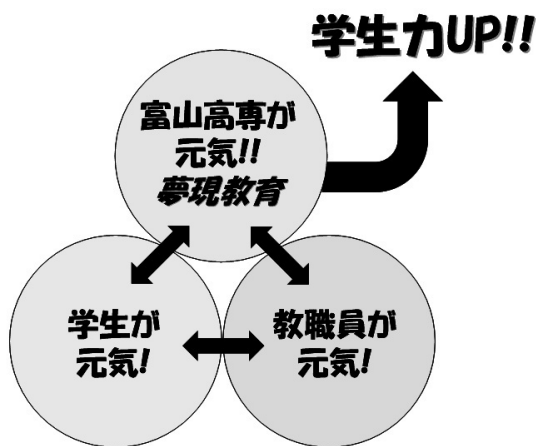


図10 本プログラムの効果

のみならず我が国全体のニーズに応えることである。

この取組は、学生が富山高専の目標とする「実践的な技術者」に育つことを支援しようとするものである。従って日々の授業等の教育活動とも深く関わるものであり、学生力向上のための支援は、生き生きとした学生生活を基に学修への意欲を高め、授業内容の十分な定着にも資する試みである。更に高学年における研究活動についても同様であり、低学年で習得した十分な基礎能力を基に、学生生活を通して育まれたリーダーシップ、協調性・責任感及びコミュニケーション能力等を発揮して、研究活動を通して専門知識や技術を高め、技術者としての能力向上が期待できる。

6. 本プログラムの改善・評価

この取組については、新たに組織した「学生支援連絡会議」が年度ごとに先ず自己点検した後、「自己点

検・評価委員会」の評価を得る。必要に応じて外部識者からなる「評議員会」による外部評価を受ける。

次の事項を評価の観点とする。

- 1) 実現の度合
- 2) 有効性
- 3) 学生と教職員の意見

評価結果は次年度の学生支援計画に反映させるとともに、長期的な将来計画策定のための資料とする。学生の学修支援も取組の一つとしていることから、各学科のカリキュラムの改善の参考資料としても活用する。

7. 本プログラムの実現可能性・将来性

初年度は平成19年度学生支援プログラムに選定された他高等専門学校の調査、資料収集、実施基本計画の策定、実施組織の確立が中心となるが、KOSEN Cafe・放課後企画（イベント、放課後塾）の試行、低学年宿泊研修・リーダー研修の充実、カウンセラーの増員を早急に行う。第2年度は本取組を全面的に運用する。

本取組は、学生及び教職員一人一人がいかに遊-友-YOUを意識できるかに懸かっており、十分実現可能である。

補助期間終了後の展開として、本取組の核は新たな支援組織の創出、学生の心の教育を通じた学生力の育成であり、予算の制約等に伴う措置（例えば、カウンセラー等の人員は削減）は避けられないものの、より効率的な取組体制の模索は継続される。評価体制・方法の継続も同様で、自己点検・評価と外部評価を基に、改善すべき点を検証し、以後のより効果的な学生支援の実施のために反映する。

選 定 理 由

富山工業高等専門学校においては、学生支援に対する取組が明確な理念や目標に基づいています。教職員の目指す学生支援を「夢現教育」と位置付け、制度・施策面や教育を通じた人的支援面で学生支援を行っており、学生が技術者として自らの力を頼りに生きていくための知力・精神力・社会性を養っていく上で大きな成果を上げていると言えます。

また、今回申請のあった「高専元気UP！遊-友-YOUプロジェクト」の取組は、学生が支え合える友-YOUの関係構築を促し、学生や教職員の憩い・交流・活動空間としてのラウンジKOSEN Cafeを設置し、これを基盤に様々な放課後企画を学生の自発的な参加の下で展開することになります。

特に、このCafeには、学科を越えた学生が集まることになり、それに学生をサポートする教職員、カウンセラー、同窓会員、技術振興会員等も集まる空間として機能する取組であり、他の大学等の参考となる優れた取組であると言えます。